

秦漢物語図屏風(部分)
江戸時代前期

— 描かれた物語と花鳥 —

企画展

金色の屏風

Konjiki

2015.4.11.SAT ▶ 5.24.SUN

- 開館時間 10時～17時(入館受付は16時30分まで) 月曜休館(ただし5月4日は開館、7日は休館)
- 入館料 一般500円 高校生300円 小・中学生無料 友の会会員 無料 障害者手帳提示の方・付添者 無料 団体(20名様以上)、シルバーカード提示の方 2割引
- 主催 一般財団法人 林原美術館 ●後援 岡山県郷土文化財団 山陽新聞社 NHK岡山放送局 RSK山陽放送
- ギャラリートーク 会期中の毎週土曜日14時から学芸員によるギャラリートークを行います(ただし4月25日はスペシャルギャラリートークを行います)

重要美術品
桐鳳凰図屏風(部分)
江戸時代初期

林原美術館

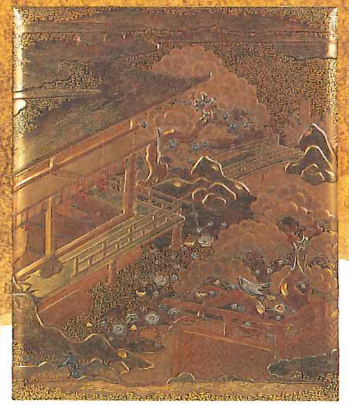
〒700-0823 岡山市北区丸の内2-7-15
TEL (086)223-1733 FAX (086)226-3089
<http://www.hayashibara-museumofart.jp>

源氏物語図屏風(部分)
江戸時代前期

重要文化財 綾杉地獅子牡丹
蒔絵婚礼調度のうち合具
江戸時代



初音蒔絵硯箱
江戸時代



金色の屏風

企画展 konjiki
「描かれた物語と花鳥」

「風を屏ぐ」の文字が表すように、屏風は風よけや、人目を遮り室内の間仕切りに用いる調度品です。『日本書紀』によると、七世紀末の飛鳥時代頃に朝鮮を経由して日本に伝わったとされ、今日私たちが目にする屏風は、室町時代頃に考案されました。桃山時代から江戸時代にかけて、権力者たちは贅を尽した屏風や障壁画で居室を飾ります。金箔を貼り、美しい絵を描いたきらびやかな屏風は、贈答の品としても広く用いられました。

本展では金が放つまばゆい色彩「金色」を主題に、館蔵の屏風の中から選りすぐりの物語絵と花鳥図を展示します。物語絵からは、項羽と劉邦の争いを描いた「秦漢物語図屏風」(江戸時代前期)など戦いにまつわる故事を描いたものをはじめ、「源氏物語図屏風」(同)や、源氏物語宇治十帖の舞台を

彷彿とさせる「柳橋水車図屏風」(同)のように、雅な平安王朝文学の世界を描いた作品などをご覧ください。花鳥図からは、近年、狩野探幽の父である狩野孝信の作ではないかと指摘されている重要美術品「桐鳳凰図屏風」(江戸時代初期)をご覧ください。本作は八曲一双の華やかな屏風で、大画面で迫力ある表現が可能な屏風の特性を存分に発揮しています。その他にも、蛤の内側に金箔を貼り、細密な絵を描いた重要文化財「綾杉地獅子牡丹蒔絵婚礼調度」の「合具」のうち、源氏物語・伊勢物語の名場面を描いた作品や、源氏物語に意匠を求めた、「初音蒔絵硯箱・文台」など、屏風の画題にちなんだ工芸品もご覧ください。

金色の屏風に描かれた勇壮な合戦図、情緒あふれる物語絵、そして絢爛豪華な花鳥図が織りなす世界をご堪能いただければ幸いです。



柳橋水車図屏風 江戸時代前期 (右隻)

林原美術館

HAYASHIBARA MUSEUM OF ART

〒700-0823 岡山市北区丸の内2-7-15 / TEL (086) 223-1733
FAX (086) 226-3089 / <http://www.hayashibara-museumofart.jp>

* 車椅子対応の設備あります。

交通 / JR岡山駅から徒歩25分 / 路面電車[東山行]県庁下車徒歩7分
岡電バス[岡電高層行]県庁前下車徒歩3分
宇野バス[瀬戸駅前行・四御神行]県庁前下車徒歩3分



次回予告 企画展「観て魅て! やきものニッポン」
平成27年6月2日(火)~7月5日(日)

日本各地には、風土と歴史に根差した様々なやきものがあります。古い歴史を持つ瀬戸は施釉陶器を、伊賀や信楽、そして備前は焼き締め陶器を作りました。江戸時代になると、佐賀藩では色鍋島など珠玉の磁器を焼成しました。本展では多彩な日本のやきもの魅力に迫ります。